

## 市民協働事業 相互評価シート

### 1 市民協働事業の概要

事業名称	横浜市自治会町内会新しい活動スタイル応援事業		
事業の実施者	事業者	一般社団法人地域インターネット新聞社	
	行政	横浜市市民局地域活動推進課	
事業の目的	新型コロナウイルス感染症の影響が続く状況下においても、地域の絆をつなぎ、自治会町内会活動を継続・活性化していくため、ICTを活用した新しい活動スタイルを支援する。		
事業の内容	ICTを活用した会議、情報伝達等を体験する講座の実施、相談対応 等		
役割及び責任 分担等	必須項目	事業者の役割	横浜市の役割
	オンライン会議、LINEその他のツールを使った情報伝達・共有等の体験	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講座の企画及び実施</li> <li>2 参加団体との連絡調整</li> <li>3 会場設営、運営サポート</li> <li>4 会議ソフトやLINE等の活用方法紹介</li> <li>5 上記に係る相談及び講座資料の配布</li> <li>6 参加者アンケートの実施、集計、実施報告書の作成</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 事業広報、事業者提案とりまとめ</li> <li>2 地区連合町内会との連絡調整</li> <li>3 参加団体募集、とりまとめ</li> <li>4 講座の企画・実施協力</li> <li>5 アンケート全体分析</li> </ol>
	ICT活用に関連した相談対応	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 相談会の企画及び実施</li> <li>2 電話・メール等による質問、相談対応</li> <li>3 相談対応記録の作成</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地区連合町内会との連絡調整</li> <li>2 相談会の企画・実施協力</li> <li>3 相談事例のまとめ、紹介</li> </ol>
	今後のICT活用に向けた提案	ICT活用に向けての課題整理、活用手法の提案	ICT活用に関する今後の支援策の検討
実施期間	令和2年10月12日～令和3年12月17日		

記入日	令和3	年	12	月	26	日
・団体等名：	一般社団法人地域インターネット新聞社					
・記入責任者氏名	橋本 志真子					
連絡先：	045-564-9038、info@hiyosi.net					
・部署名：	市民局地域支援部地域活動推進課					
・記入責任者氏名	木村 剛、森 芽久美					
連絡先：	045-671-3624					

## 2 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

### ◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

### ①事業計画段階

	事業者	横浜市
この事業の目的やミッションを互いに共有し、理解することができたか。	A	A

### ②事業実施段階

	事業者	横浜市
互いの役割を自覚し、強みを生かしながら、積極的に取り組むことができたか。	A	A
参加者のニーズや事業の進捗に応じて、臨機応変に対応しながら取り組むことができたか。	A	A

### ③ふりかえり段階

	事業者	横浜市
参加者が満足を得られたかどうかについて、互いに結果を共有し、確認できたか。	B	A
事業目的を達成するため、互いが役割を果たし、期待された事業成果を得られることができたか。	B	A

### 3 事業評価相互検証シート

「2 事業実施プロセス相互チェックシート」の結果をもとに相互に本シートを作成し、まとめます。

<b>事業の計画づくり</b> (事業の計画段階で、お互いの認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはありますか。)
<b>【共有できたことや認識に違いがあったこと】</b> (共有できたこと) <ul style="list-style-type: none"><li>・ ICT 講座の開講への一定の理解を得られた (港北区内 13 地区→8 地区エントリーを得られた)</li><li>・ 市のプランで骨組みがしっかりとしていたので、それに沿って計画を立てることができた</li><li>・ 地域の人に LINE と Zoom の必要性を理解してもらうためのハードルが高かった (市の意向を伝えにくかった)</li></ul>
<b>【今後改善が必要と思われること】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ なぜその講習会を行うのかの動機付けや成功イメージをもっと受講者側 (自治会町内会側) に伝える必要があったのではないかと感じる</li></ul>
<b>事業実施</b> (協働して事業を実施した結果、お互いの認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
<b>【共有できたことや認識に違いがあったこと】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ うまくいっている自治会町内会には問題がなく順調さをアピールできたが (7 地区)、間が開いた最終回の綱島のみ、その成功イメージを特に伝えることが難しく、講座が延期になった際の特別な対応が (市側に) 必要であったのではないかと感じた</li></ul> <p>(そこまではガイドになかったと思うため)</p>
<b>【今後改善が必要と思われること】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ その講座を実施すると「このような良い点がある」ということを、より明確におこなうためにも、自治会町内会広報でより IT 予算を組み、学校などのようにホームページのテンプレを作るといった日頃からの IT 化の支援が必要であると考えます</li></ul>
<b>事業の成果</b> (協働して事業を実施した結果、得られた成果はありますか。また、事業全体を通して、当初期待された事業効果は得られましたか)
<ul style="list-style-type: none"><li>・ いま、担当した全地区と IT ツールを使いつながれたことから、日頃からの情報共有に役立てられています。広報よこはまの配布や一部紙メディアでしか流通しなかった情報 (防犯、防災なども含む) を速報ベースで伝えることができるなど、地域のインフラ情報受発信を今後も継続しておこなっていく体制づくりができた</li></ul> <p>横浜市：前例のない事業ということで、事業を進めながらスキームも微修正するという中で、協働事業者</p>

の皆様には多大なご負担をおかけしました。講座の実施においては、丁寧なご説明をはじめ、参加者の方に寄り添いながら細やかにフォローをしていただきました。事業者の皆様からいただいた意見も踏まえ、今後の地域支援につなげていきたいと考えています。

#### 自由記入欄

・「コロナ禍」により劇的に進んだ IT 化ですが、日頃から IT ツールをより活用（せめてメールアドレスを自治会町内会担当の必須事項にするとか、手紙は極力廃止するとか）するプロセスが背景にあれば、ここまで一気に事業を行う必要はなかったはずなので、経費節減策（税込減、環境問題で紙の廃止、市側の人件費の削減）においても、さらなる広い意味での「IT による情報受発信」事業の発展的な継続を望みます。